

第三種郵便物承認 HSK通巻5101号2019年12月15日発行

HSK

会報「石川守る会」

NO. 89

石川県重症心身障害児（者）を守る会

全国重症心身障害児（者）を守る会

石川県支部 会長 山本 衛

記録的な猛暑が収まったと安心する間もなく、今度は大型の台風が
続いて上陸し甚大な被害をもたらしました。亡くなられたみなさん、
被災されたみなさんに心よりお悔やみ、お見舞い申し上げます。

気候も不順で寒暖の差が激しい日が続いています。会員の皆様方、
お子様達にお変わりはないでしょうか。 今年はインフルエンザも
例年よりずいぶん早くから発生し、大流行するのではとの予測もさ
れています。くれぐれも体調管理にはご注意ください。

7月の参議院選挙で重い障害のある議員が誕生しました。国会の
議場席もバリアフリー化されたとのこと。

先日は参議院の各委員会で地域で生活する上でのバリアーや消
費税や教育について発言されました。障害のある人達の声が国に届
くようになることを願っています。



昼食会が開かれました!!!

8月25日(日)「ぶどうの木」で昼食会を開催しました。まだまだ暑い日でしたがぶどう棚の下に席を取ってありました。

1年ぶりの昼食会でお互いに近況を報告し合ったり、情報を交換し合ったりとにぎやかなおしゃべりから始まりました。

前菜やスープサラダなどのバイキングにメインのパスタとピザ、さらにステーキと盛りだくさんの料理に「タッパーもってくればよかった」の声も聞かれました。お腹も気分も大満足でした。

山本会長から来年11月には東海北陸ブロック大会を片山津で開催するとの報告がありました。「少し遠いのですがみなさんのご協力で何とか成功させたいと思っています。よろしくお願いします」とのことでした。

災害対策は大丈夫でしょうか??



10月上旬に大型の台風が次々と日本列島に襲いかかってきました。

関東甲信越から東北にかけて広い範囲で多くの河川が決壊し水害が多発しました。地球温暖化の影響を受けてか近年大きな自然災害が日本列島の至る所で起きています。どこでも甚大な被害を被っています。

子どもの命・自分たちの命をどう守るのか、どこに避難すればいいのか、避難経路は大丈夫なのか、もう一度見直す必要があります。

東日本大震災の時も被災者数の割合は障害のある人が一般の人の2倍に及びました。重症児(者)は生きるために様々な機器や医薬品や物資が必要です。行政にお願いすること、病院との連携、自分たちで準備できることなど検討することは色々あります。

まず災害からなんとしても逃げ延びて、安全に暮らせる場所を確保することが大切です。会としても今後みんなで知恵を出し合い考える機会を持ちたいと思います。

“石川県障害者ふれあいフェスティバルに参加しました”



9月22日(日)産業展示館で開催された石川県障害者ふれあいフェスティバルに守る会も参加して恒例の靴下を販売しました。毎年楽しみに待っている人も増えてきてお客さんがひっきりなしに来てくれました。

今年は東さんが能登票を持ってきてくださって売り上げは合わせて59000円でした。当日お世話頂いたみなさんご苦労様でした。

卒業後も学びたい ～重度障害 訪問学習の光～

第55回全国大会で文部科学省の有識者会議がまとめた報告で「卒業後も学び続ける環境の整備を図る」との方向性が示されたとお話がありました。東京、神奈川、静岡などで少しずつ動き始めているようです。



パソコンに向かい視線で線を描く訓練をする佐々木涼さん(奥)と見守る母の昌代さん(手前)＝川崎市中原区で

特別支援学校を卒業した後も重度の障害者が自宅で学べるよう、訪問学習の機会を提供する動きが、静かに広がっている。今は一部の民間団体の取り組みに限られるが、医療技術の発達で、今後医療的ケア児の増加は見込まれ、卒業後の進路としてもニーズがある。在宅で孤立しがちな障害者と家族への支援として、国に制度化を求める声が上がっている。

(安藤恭子)

七月下旬、川崎市中原区の佐々木涼さん(三〇)のマンションをNP〇法人「あいけあ」(同区)のスタッフが四人が訪れた。涼さんは一歳九カ月の時、髄膜炎を患い、心臓停止となった。命は取りながら日々を暮らしている。

孤立しがちな在宅 民間奮闘

この日の課題はパソコンを使った視線入力。「描いてみましょうか」。スタッフの支援でベッドから車いすに移った涼さんは、目を大きく開き、画面に鮮やかな色の線を描き始めた。「ばっちりです！ ダイナミックな絵になりましたね」。スタッフに促されて、画面の下に視線を集中させるようなしくも、一時間近くパソコンに向かった。

涼さんは自分で体温調節がうまくできず、特に暑い時期は屋外に出られない。あいけあの訪問事業を担当する瀬戸由紀子さんは、涼さん(三〇)のためにこの日、ピニール傘に黒い布を覆った手作りの「ブラネタリウム」を用意した。横たわる涼さんのベッドの上に傘を上げ、夏の花火大会の映像を投影。ギターの弾き語りなどをして、約一時間半の学習を終えた。

「心地よい疲れを感じているみたい。息子と共に家に閉じこもりがちな家族にとっても、こうして来てもらい、学習できることは新鮮」。母の昌代さん(五七)はほほえみながら、作業に集中する涼さんを見守った。

あいけあは、医療的ケア児らが

こちら

特報部

特別支援学校卒業後、安心して過ごせる地域の居場所をつくらうという母親らの勉強会をきっかけに、特別支援学校教員や看護師らが発足させた。二〇一八年春、卒業生の日中の生活介護と、在学中の児童生徒が通える放課後アサヒスを提供する多機能型事業所を開設した。

加えて試行しているのが、事業所に通えない重度の卒業生宅への訪問事業だ。昌代さんは「息子が卒業して十年ほどの間、月一回程度の通院やリハビリのための外出以外、刺激のない毎日が続くのをかわいそうだと思ってきた。この事業を紹介された時、やっと社会に私たちのことを見つけてもらえたと思えて、うれしかった」と振り返る。

特別支援学校在学中から訪問学習の対象となっていた重度障害者の場合、卒業すると福祉サービスとしてのヘルパーや訪問看護は受けられず、在宅での音楽や美術といった表現活動、運動プログラムなどの学習の機会がほぼ失われる。特別支援学校の現職教員でもある瀬戸さんも言う。「人生は長いのに、卒業すると、ふつりと社会とのつながりが切れてしまう。訪問事業を始め、「この子は生きていて良かったんですね」と言われた時、涙が出た。必要な事業と

感じる」

オルゴールセラピーと講演会のお誘い

以前みんなで体験して好評だったオルゴールセラピーを再度体験したいとの声もあり、セラピストの高田先生にお願いしました。

その後医王病院副院長の大野先生にご講演をお願いしました。

日時	2019年12月8日(日)	13時30分～15時30分
場所	医王病院中病棟3階地域医療研修室	
講師	オルゴールセラピスト 高田 悦子氏 医王病院副院長 大野 一郎氏	
日程	13:30～14:30	オルゴールセラピー
	14:40～15:30	講演

澄んだオルゴールの音色を親子で聞き、心や身体の緊張をほぐしましょう。
リラックスしたところで、長年重症児者の医療に取り組んでこられた大野
一郎先生のお話をお聞きしたいと思います。

沢山のみなさんの参加をお待ちしています。

* 今後の予定

11月16日(土)～17日 名古屋市 ウィンクあいち
全国重症心身障害児(者)を守る会東海北陸ブロック大会

計 報 令和元年10月本会会員の川場あさ子様のご姉妹まり子様がお
亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。



編集人	石川県重症心身障害児(者)を守る会
連絡先	929-0123 石川県能美市中町ツ 88-1 TEL 0761-56-0610
	会長 山本 衛
発行人	北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 312 番地
定 価	30 円